

子どもの心情に合わせた関わり方 ～「待つ」間、何をすればいいの？～

埼玉県立大学・大学院 東宏行

1. 「待つ」という支援方法 ～待っているだけでいいのか・・・という不安～

1) 近年の不登校の質的变化

1. 反抗期の変化と不登校（家庭内暴力）
2. 理由探しをする子どもたち
3. 情報化（ケータイ・ネット）がもたらした形

2) 登校支援は＜関係＞で考える

1. 関係をつくる
2. の関係を変える ⇒

3) 最近の不登校をめぐる子どもと大人の関係から

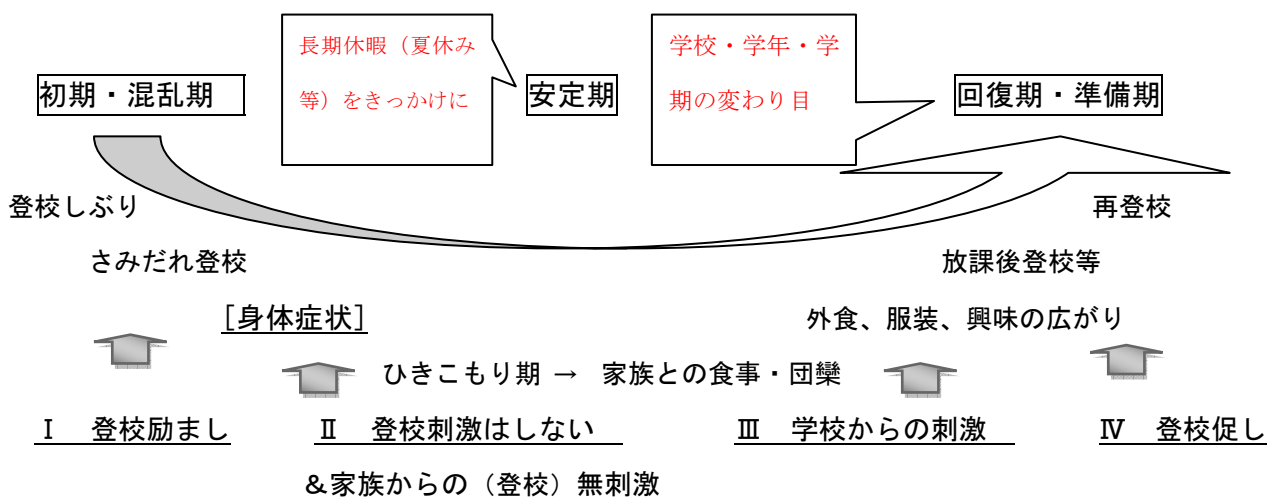
1. 過剰支援と過剰非支援
 - ・つくられる友人関係へのとまどい
 - ・ をこころがけてみる
2. 理由探しをする大人と理由探しをする子ども
 - ・察知力が高くなった、最近の子ども
 - ・ 接し方をする
3. 待てなくなったのは子ども？大人？
 - ・過剰な刺激・はげましは、うっとうしい・ウザイという感情を強くし、関係をこじらせる
 - ・ ではないかかわり方を豊かにする

2. 子どもの心情に合わせた関係づくり 【支援のコツ1】

1) かかわり方は不登校の時期と状況に応じて変わる

1. 年齢（学年）によって刺激の方法は違う（小学校低学年／高学年／中学生／高校生）
 → → →
2. 学校暦に合わせたかかわりをこころがける
3. 再登校への働きかけには がある

4. 不登校の期間や状況によって支援方法は違う＝時期によって少しずつ違う支援方法



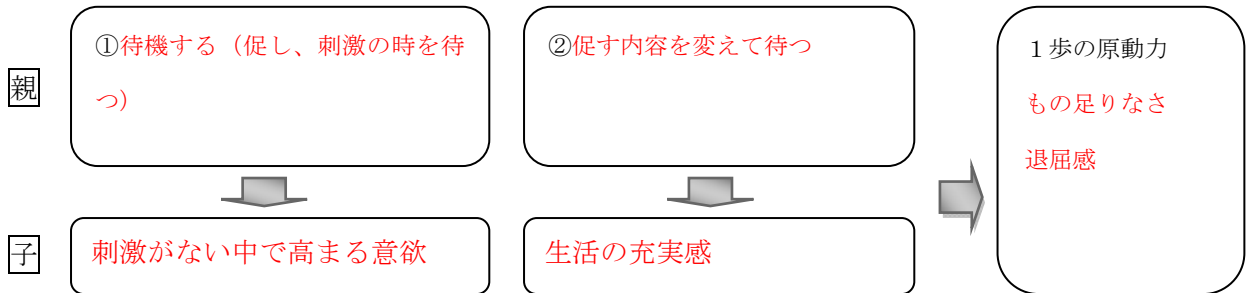
- ① 3～4日目
- ② 1～2週目
- ③ 1～2ヶ月目

2) こどもたちの心情変化に合わせた関わり

1. ほとんどの不登校のこどもは「学校には行かなくちゃ、行けるのなら行きたい」と思っている
 - ⇒ 分かりきったことは何度もきかない
2. 原因や要因は複合的なことが多く、自分でも整理できない
3. 周囲の反応に敏感になり、期待に応えられない自分に自己肯定感を持ってないでいる
 - ⇒ 「自分のために」より、誰かのためにという良心
 - へはたらきかける
4. 全てを理解されることは嫌だけれど、知っていて欲しいこともある。
 - ⇒ 理解・共感するより大切な 見捨てない (例えば、家庭訪問)
5. 周囲に遠慮し、迷惑をかけたくないという気持ちになりやすい
 - ⇒ おまえのせいだ、親が迷惑だ、恥だ というメッセージはさける
6. 友人や同級生の支えは、かなり強力な支援になることもあるが、戸惑いや怖さを感じる
7. 答えや返事を求めるかわりに戸惑いや怖さを感じるが多い
 - ⇒ 刺激（促しや提案）の後、しばらく待つ（答えはすぐに求めない）
8. 信頼できる大人・友人との関係を待っている
 - ⇒ さりげない かかわりをこころがける
9. 転校（転編入）による解決は、リスタートの方法になるが、本人の不安は想像以上に大きい
 - ⇒ 簡単に代わり場（転校・適応教室・フリーS）は提案しない

3. 「待つ」とは何もしないということではない【支援のコツ2】

1) 「待つべきか促すべきか、それが問題だ」～登校支援の難問～

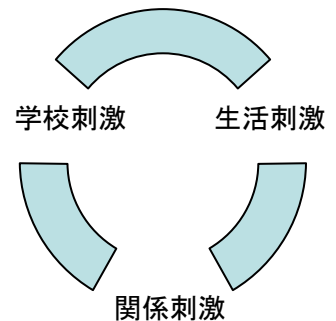


2) 待つ間に必要な具体的支援の形 (トライアングルアプローチ)

1. 生活を刺激する

- 自己肯定力をつける (⇔ 学力をつける)
- 段取り力をつける
- ⇒ 不登校の支援では料理がよく行われるのは何故か?
- 模倣力をつける
- 集中力をつける

刺激のトライアングル



2. 関係を刺激する

- 趣味 (間接関係)
- 家族の中の媒介をつくる
- 外出の機会をつくる
- ① **外食・家族旅行**
- ② **スポーツ・音楽鑑賞・映画**
- ペットと栽培

3. 段階的に登校刺激

- I. 学校無刺激 …… 休息期 / 生徒でない私になってみる時期
↓ **待ち方を工夫する - (学校以外の刺激を豊かにし、関係を変える)**
- II. 学校関心間接刺激 …… 学校の様子をさりげなく知れる環境づくり
- III. 学校関心直接刺激 …… 関係づくりの時期 / 学校の関係者 (友人・教師) との接触
↓ **居場所 (ベースキャンプ) づくり - 家の外に居場所をつくる or 定期的外出**
- IV. 登校準備刺激 …… 保健室登校、放課後登校、適応指導教室等への通室刺激
- V. 学校刺激 …… 学校情報提供期 (行事日程、テストの日程等を知らせる)
- VI. 登校刺激 …… 登校誘導期 (具体的日時や場所)

3) 学校—家族間の橋渡しとなる「中間的居場所」・「中間的活動」をつくる

- ①教育支援センター（適応指導教室） ②民間のフリースペース ③保健室・放課後登校
- ④その他の場（塾、〇〇教室、スポーツセンター等） ⑤サークル（ファンクラブ）

★ 中間的居場所につなぐ際のポイントは

見学・体験期

案内・パンフの活用

選択肢の1つとして提案

(説明会・行事・体験会)

★ 中間的居場所のメリット

親にとって

子どもにとって

教師にとって

4. 「待つ」間、配慮しておきたいポイント

- 1) 支援の基本は **現状維持（二次的問題予防）**
- 2) 親と教師の基本的関係は **学校・教師が刺激し、家族が相談に乗るという関係をつくる**
- 3) はたらきかける・動きをつくるよりも **関係づくりをする＝期待感を抑える**
- 4) 家族以外の人との関係を少しずつ広げていく **コーディネート** するかかわり
- 5) 率直に話しができるようにするために必要な **学校・勉強以外の** の会話や体験
- 6) 登校への促しや誘いには、時間・場所・ **課題（何をやる）** ・ **誰がいるか** を伝える
- 7) 発達障害やその疑いのある場合
 1. なじんでいく **時間やきっかけ** を大切にする
 2. 特別な支援には、適切な場やタイミングがある
- 8) 医療機関等を利用する場合
 1. 受診は **本人の困り感** の有無を尊重する
 2. 助力にはなるが、それだけで解決はしない

まとめ：もっとも大切な関わり方のコツは

- ① 作為的にならない
- ② 率直に話せる関係づくり
- ③ やって見て修正する